

平成14年11月1日発行



いなほ



一日、三日、
十五日には、
神社にお参り
しましよう

八日	二月	十一月	每月
針受天初節	一月一日	七五三祈願	一日
供養	新歲	古神札燒納	月
驗合満天	新年	新穀感謝	新
格神	元旦	伊勢神	伊勢
祭	祈願	神社	神社
願	祭	燒納	燒納
祭	祭	感謝	感謝
神	式	神宮	神宮
社	祭	祭	祭
祭	祭	祭	祭



平成十五年 運勢

宮司 根津 泰昇

バブルが崩壊し、米国同時多発テロ以来世界の経済は大恐慌の兆しがうかがえる。日本経済も同様十月に入り日経平均株価も八五〇〇円を下回る大安値をつけた。県内においても公務員給与が始めて民間給与水準を上まつた現状の中一、九九%の減額が勧告された。まさに先が見えてこない経済状況下であります。

この様な時代には、本人の生年月日を活用する九星学を用い、現在や未来の運勢を予断し、攻める時期は攻め、守る時期は守り、生氣を蓄える時期は蓄える決断が必要です。

そこで自分の運勢が今どこの波の上にあるのかを知り、吉年、吉月、吉方位を利用して、積善を忘れないに積極的な運命開拓をなさることが肝心であります。

平成十五年癸未（皇紀二六六年）の基本運を予想すると、保守保全に努めて動かすおれば結実完成、希望達成や、また良き人と巡り会い仕事や生活が充実してくる。反面強引に変化運動を起こすと、他人に振りまわされ、自分の行動がとれず、費用の支出も嵩む現象が現れます。

二黒土星（慎重運）
ひたすら忍耐を必要とする年です。強引に諸事決行すると、伸びようとしても伸び得ず何かと心労多く悩みや気迷い事が生じ、経済的に低迷の兆しがあります。又盜難、水難、詐欺や法律違反にも注意が必要。

三碧木星（向上運）
盛運期に入ります。急速な躍進は望めませんが、基礎作りの年です。外面華やかさや、發展性はないが温順平穏な運期でしょう。若い女性は良縁の運もありますが家族の意見にも耳を傾ける事も必要です。

四緑木星（発展運）

今まで目標に向い努力してきて決し兼ねる事があります。将来的に不動産・家屋の購入を考えたり、後継者問題、子供の問題等が起こりますが、問題等が熟慮し行動する年です。

九紫火星（変化運）
変化改造の方針が二途に迷つて決し兼ねる事があります。将来的に伊勢の御神宮へ参詣する所にお問い合わせ下さい。

五黄土星（盛運）

これまで目標に向い努力してきて決し兼ねる事があります。将来的に不動産・家屋の購入を考えたり、後継者問題、子供の問題等が起こりますが、問題等が熟慮し行動する年です。

六白金星（慎重運）
運期は強く一段落する時ですが、本年の基本運をまともに受けますので、今を充実させて維持していくことが大切です。何事にも慎重に。

七赤金星（慎重運）
気力も増し万事に積極的ながちですが、暗剣殺を帶同するので出費に注意、又対外的にも問題が生じやすい時です。自己過信にも注意し、現状維持に徹すること。

八白土星（順調運）
慶事、旅行等義理の交際が多くある年です。経済的には収入もあり華やかな面も多くあります。外面賛沢事や遊興費の出費には注意が必要です。分相応を守つていけば充実する年です。

九紫火星（変化運）
変化改造の方針が二途に迷つて決し兼ねる事があります。将来的に伊勢の御神宮へ参詣する所にお問い合わせ下さい。

全国に約八万社あるといわれる神社のなかで、中心となる神社は、三重県伊勢市に鎮座する伊勢神宮（正式には「神宮」）です。日本の總守護神と仰がれていますから、伊勢神宮のお神札（大麻）は、全国の家庭の神棚に各地域の神社のお神札と共に祀られています。

伊勢神宮は天照大神を祀る内宮と、農受大神を祀る外宮の二つのお宮から成ります。内宮が現在の地に鎮座したのは、日本書紀によると第十一代垂仁天皇二十五年と記されています。そして内宮に祀られる天照大神への食事を司る神として祀られた外宮は、第二十一代雄略天皇の時代とされます。三世紀なかばころ大和朝廷によつて日本が統一されると、この国の守護神として、また皇室の祖神として祀られたといふ古い歴史を保有してきました。伊勢の神宮は、常に清々しいお社に神さまをお祀りするこの吉方位、凶方位、わかえの御御石、御砂、御水取りの方位取り又は除け・厄除の御祈願等詳しく述べたい方は社務所にお問い合わせ下さい。

伊勢神宮と神宮大麻

繁に行われるようになりました。

その背景には、「御師」とい

う伊勢神宮に付属した神主た

ちの存在を忘れてはなりません。

御師の数は多いときには約

〇〇家を数え、それぞれの縄

張りとする全国の各地域に下

つて行き、伊勢のお神札を配

つて回りました。その際、伊勢

神宮への参詣も案内、勧誘

したため、津々浦々まで伊勢

神宮のことが知られ、伊勢

参宮の気運がここに江戸時代

には高まり、「一生に一度は

伊勢詣で」という流行言葉ま

で生まれるほどでした。

明治に入り御師の制度が

止され、明治五年から神宮大

麻は伊勢神宮が地方の神社を

経由して領布するようになり、

現在に至っています。御師が

配つていた当時の伊勢神宮の

お札を「お祓い大麻」と称し

ていましたが、明治五年以降

は「神宮大麻」と言います。

現在では、伊勢から山梨県神

社庁に運ばれた神宮大麻は、

県内の神社を通じて各家庭に

配られています。

現在、山梨県内で頒布され

ている神宮大麻は、約十二万

体を数えます。

各家庭の神棚には、神社の

本宗と仰ぐ伊勢の「神宮大麻」

を、神社のお神札と共に祀

りします。

平成十五年度

祈願提灯奉納のすすめ

古来より清淨なる火に神宿ると言われております。この故事にちなみ、当神社では、ちようちに住所、氏名、家内安全、商売繁昌祈願のどちらかを書き入れ御神前に掲げ一年の御繁栄、御幸福と共に社頭の殷賑を図つております。

宏大無辺なる稲荷の神様の御加護を戴く日々をお過ごしになるよう「祈願提灯」の奉納をお勧め致します。

祈願提灯初穂料
一灯 一年間 七千円以上

祝祭日には
国旗を上げましよう!!

神社社務所でも頒布しております。

国旗セツト

(国旗、竿、金色冠頭、取付金具、収納袋付)

頒布価格 一、五〇〇円

よしよと

○職場体験学習

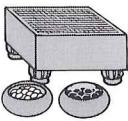
平成十二年より行なわれて
いる職場体験学習は例年の山
梨大学付属中学校（七月十五
日実施四名）に加えて甲府北
中学校（七月十日実施七名）
甲府南西中学校（十一月八日
予定五名）の三校の男女生徒
が体験学習を行なつた。

○囲碁大会出場

去る八月十九日、昨年に続
き二回目となる神社関係者囲
碁大会に今年も二チームが出
場、Bチームが見事準優勝し
ました。

○崇敬青年会家族親睦会

当神社崇敬青年会（大澤慶
賜会長）は去る九月二十二日
家族親睦会を芦安村で開催、
会員家族十五名が参加、会員
家族相互の親睦を計りこれか
らの神社奉仕活動に精神する
誓を改にした。



お正月って なんだう?

お正月は、新年のお祝いで
あり、また“年神様”を迎える行事でもあるのです。

日本のお正月は、新年を祝う事とともに新しい年神を迎える行事でもあります。年神は「年徳神」「正月様」などとも呼ばれます。トシには穀物や稻の意味があり年神は実りをもたらす田の神と考えられてきました。古くから稻を育ててきた日本人は、新年の豊作を年神に願つたのでした。

また年神は、その家の祖先神としても崇められてきました。大晦日の夜に訪れ、人々に新しい年を取らせ子孫を見守ると考えられてきたのです。年を取る、ということは単に年齢を重ねるだけでなく、新しい魂を神から与えられ、生命を蘇らせる意味をもつています。

お正月の準備を始める日を“正月事始め”といいます。
その日を十二月十三日とする
方が多くあります。

新年を迎えるに先立ち、一年間の汚れを払い清める煤払
いは、正月事始めとも呼ばれ、

松迎え（正月用の松を探りに行
行くこと）、しめ縄作りも行
われます。今では大掃除とい
う形が多くなりました。

正月飾りは生命力の象徴

門松は、元々年神を家に迎える道じるべの意味をもちます。常緑樹の松は強い生命力の象徴でもあり、古くから神木とされ、竹も常緑でまつすぐな幹や倒れにくいために使われました。しめ縄は年神を祭る場所を示すもので、神事と俗事を区切るために使われ、邪除けの意味をもちます。

春を迎えるお正月

日本は明治時代に旧暦を廃止し、世界共通のグレゴリオ暦を採用しました。それ以前は新年を、春の初めの立春（二月四日頃）に合わせていました。中国の暦法から、太陽の最も低い冬至から始めて一年三六五日を十五ずつ分ける区切りを二十四節気といいます。四季の分かれ目は立春、立夏、立秋、立冬で、それぞれの前日が節分ですが、現在は春の節分だけが残っています。正月節は立春から啓蟄（三月六日頃）までです。この頃は、

梅の花がほころび始め、地中の生き物が目覚め始めます。「おめでたい」という言葉は「芽出度い」からきているといわれます。

元旦の“若水汲み”

元旦の早朝初めて汲む水のことを若水といい、若返りの力があるとされていました。水道が普及する以前は大切な正月の儀礼で、井戸や清水の湧き所まで年男（一家の主など）が汲みに行き、年神に供え、家族のための煮炊きや洗顔に使い、一年の健康を願いました。

雑煮で新年をバワーアップ

雑煮には、本来は大晦日の夜に年神に供えた食物を下げてごった煮にし、神と人との

一緒に食事をするという意味がありました。人々が神に捧げた飲食物を共に分け合つて食べることで靈力を得ることができます。

一年の計は元旦にあり

家族揃つて初詣で

当社では元旦午前零時より新年初祈願を斎行致します。参拝され、一年の御加護を戴かれますよう御案内申し上げます。

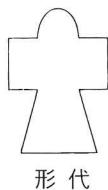
大　おおはらえ

祓

大祓は、一年を二つに分け、六月と十二月の晦日に大祓式を行ない、それぞれの半期の罪歳を祓う神事である。

形代

形代で身を撫で息を吹きかけるのは心の穢を追い出す事意味し、自分の穢を人形に移し、人形をわが身の代わりにして清めてもらうのです。神社で受けた形代に、家族の名前を書き、それぞれ身を撫で清い心に立ち帰るよう願い、息を三度吹きかけます。十二月三十一日、大祓の式の始まる前までに、形代に初穂料をそえて、社務所にお持ち下さい。



形代

古いお神札の納め方

旧年中の古いお神札等は、神社で神事を行ない祓い清めたのちに焼納しますので近くの神社にお納め下さい。焼納祭の日時は神社により異なります。神札は神社のものであればどここの神社のものでも構いません。また御神矢（破魔矢）、熊手などの縁起物や神棚なども一緒に神社に返納します。

鎮守の森と子供たち

第五十三回敬神婦人会滋賀県大会に参加して

敬神婦人会 保坂 祐子

厳しかった暑さも何時か爽やかな秋の気配を感じる季節となりました。去る九月五日全国敬神婦人大会滋賀県大会に山梨県神社庁よりバス二台で出席する事になり、私達稻積神社敬神婦人会も敬神の信仰深い横森会長他六名にて一号車で心踊らせてはじめて尋ねる滋賀県を目指して出発致しました。車窓に写る初秋の野山夏から秋へと変る様を目しながらあつと云う間の大津入りでした。昼食をすませて一路大会会場大津プリンスホテルへと向いました。大会物の楽しい買物など皆で目を見はつ買いあさり愈々十四時、第五十三回敬神婦人大会滋賀県大会の開会です。参加者総勢千七百名広い会場がはっきりれんばかりの盛会さです。私達も敬神深い参加者の一人として太奈の仲間入り致しました。

森林の多い国で古代から森から学ぶ」と題して日本は極めて森林の多い国で古代から解放される場所でありたいと

のなかで自然の恵を受けて生活してき祖先から受けついだ自然の偉大さを肌で感じ、これらの子供達にも自然科学を通じて全ての生き物の相互関係を理解させる為環境教育に活用できるのが鎮守の森ではないかと結びました。続いて平田喜代美先生の「日本古来の妊娠出産育児の歴史から」と題して今の若い親達は子供に大変困惑していく戦後の日本は欧米化思考と更に核家族によって世代間との断絶の大切な伝統文化が途絶えその影響は今や子供達の心身にも大きな変化をもたらしているとの事でした。又著書に「おっぱい一〇番」「母乳育児は地球を救う」などあり母乳の大切さをお話して下さいました。

十二回から五十三回と続いて頂き神様は心のより所と云う事をつづく感じ更々敬神の心を強く致しました。正月用しめ飾セツト当神社にて頒布しております。

しめ飾セツト

御年神札、三宝荒神、しめ、神棚十二枚、玄関三枚、床間二枚、人形一枚綴十組、屋敷神四枚

初穂料一セツト三千円

命継く食もの衣もの住むいへも
稲荷の神の恵みなりけり

正ノ木稻荷大明神

甲府市太田町公園内鎮座
電話(055)233-5573
FAX(055)226-0787

結びました。

最後に大会シンポジウムの「鎮守の森と子供達」コーディネーター洪沢寿一先生は日本の手を入れながら古代から現在へと引継いできたもので、水、

森はかつて人々が生活の中で手を入れながら古代から現在へと引継いできたもので、水、

森は人々の生命そのものであり人間も自然の一部にすぎない。現在を見れば自然から経済へと変化し経済の発展こそが人間に豊かごと安心をもたらすとされ、自然是人間社会の外に追いやりられた現在だと植物や動物と同じ視点で自然と接し五感で体得していくしかなく、環境問題はテクノロジーや科学では解決出来ない人々の心の問題であると結びました。本當長時間の講演でしたが皆様に会を終了致しました。

当日は曇り空で十六夜月の観月会とはなりませんでした。

が出演会員十三名が平調音取越殿樂、五常樂の演奏と簡単な雅樂説明をし、境内につめかけた参拝者より盛大な拍手を戴きました。

雅樂会神賑行事出演

これは当神社責任役員、雅樂会員の丹澤正臣氏が青沼浅間神社氏子、睦自治会々長、祭典当番長で企画実現しました。

去る九月二十二日、青沼浅間神社秋季例祭の神賑行事に当神社雅樂会が出演しました。

平成十五年厄年表(数え年)

女	男	女		男		前厄	大厄	後厄			
		13歳	13歳	32歳	41歳						
厄		年		S四十七年生		S三十六年生		S三十五年生			
年		S四十八年生		S三十五年生		S三十六年生		S三十五年生			

数え年とは、満年令に誕生日前には二歳、誕生日後には一歳を加えた年です。

